



(上) 岩坂知実氏  
(下) キャンプ用品を取り入れた開放的な空間でコミュニケーションも活性化

**オフィス環境・商環境** 用の家具・什器を製造販売する株式会社オカムラ（本社・横浜市）は、1980年にオフィス研究所を設け、働き方とオフィス環境に関わる研究と実証実験を重ねている。

顧客のオフィス環境向上のため、製品販売だけでなく空間設計も手がけ、働きやすさや企業風土を踏まえながら、オフィス空間全体をデザインしていく。「お客様の価値観や理念をよく読みこんだうえで働き方に合わせて提案します。弊社の手がけるオフィスは、一つとして同じデザインはありません」と語るのは、同社ワークプレイスデザイン第二部第二グループ チーフデザイナーの岩坂知実氏。

職場環境の改革を検討する企業担当者なら、オカムラが「LABO」と名付けるオフィスを見学するのもいいだろう。同社の社員自らが実験台となって、最先端のオフィス空間で仕事をしている。東京都内にあるLABOはCO-Do LABO（考動）、CO-SO LABO（考創）、CO-RiZ LABO（考率）、KEN-CO LABO（健考）の4カ所。本誌表紙のオフィスは、赤坂にあるCO-Do LABO。営業部門中心の拠点では、フリーアドレスで思い思いに業務に専念する。自律分散型の仕事だけでなく、部署のメンバーが集まる「部室」という個室で打ち合わせをしたり、バーカウンターやスタイリッシュなソファやチェアがあるスペースで談話したりするなど、業務の「集中」と「対話」のメリハリがつく仕掛けである。いかにも創造的な仕事ははかどりそうだ。

最近ビジネスの現場ではABW（Activity Based Working）が注目されている。その時の業務内容に合わせて最適の場所を選ぶ働き方である。毎朝定時に出勤して、決まった席につき社員はまだ多いものの、1日の仕事はそれぞれの業種や職種によって違い、働き方も多様化している。新型コロナウイルスの影響で時差出勤やリモートワークも当たり前となった。「業務内容に合わせて働く場所やワークスタイルを選択して仕事をすれば、空間も働き方も効率性が高まります」（岩坂氏）。オフィスデザインはオシャレだけでなく、生産性と創造性を引き出すことが目的なのだ。

KAIKAを支援する！ JMAの事業活動のご紹介

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

最近何かと話題のSDGs。あそこでISO君と能率博士がSDGsについて何か話してるぞ。



“SDGs”…何て読むの？ エスディー・ジーズ。

それ、いったい何者？ 国連がつくった17のゴール。

ゴール？ サッカーとの関係は？

ないない。2030年の行動計画、目標のことじゃ。

なぜ国連がそんなのつくったの？

地球の危機を救うためTransformが必要だからだな。

トランスフォーマー！ マイケル・ベイ監督の？

映画じゃなくて！ “変革”が必要って意味。

なぜ今、SDGsに取り組むの？

え…？

うそうそ。この先の地球環境に向けての全世界での取り組みだよ。投資家や政府、自治体も期待しているからね。

うそうそ、投資家も？ 政府も？ …初耳だ。

でしょ！ 詳しく知りたければ【日本能率協会SDGs最強の早わかりサイト】を見るのだ～！

【日本能率協会SDGs最強の早わかりサイト】

<https://jmaqa.jma.or.jp/sdgs.html>